

# 農を創る

第10回県元気な農業コンクールから

「この枝は切っちゃった方がいいかな」。1月21日、前日の雪が残る凍えるような寒さの中、メンバー15人が市道沿いの獣害防止柵上部のネットを鹿が飛び越えないよう張り直していった。板荷畑いつくし美会代表の福田明さん(57)は「一声掛ければ皆集まってくる」と目を細める。

鹿沼市北部の中山間地域に位置する板荷地区。地区の北東部、日光市に隣接する4区の住民184人が200

## 農村環境保全向上

## 板荷畑いつくし美会 (鹿沼)

8年、地域の農業や農村を守ろうと、国の農地・水・環境保全向上対策事業補助金を活用して発足させた。福田さんは「地域では高齢化が進んでおり、農家はほとんどが兼業。将来の地域の農業や環境保全に感じていた不安を解決したかった」と振り返る。

会の名前は「地域を慈しみ美しく残したい」という意味と、地域のよりどころとなっている「厳島神社」に由来する。地域の現状を把握しようと住民にアンケートを実施し、浮かび上がってきたさまざまな課題解決に当たってきた。最初に取り組んだのはイノシシなどによる農作物への被害対策だ。地域全体を囲うように山林と農地の境界にワイヤメッシュによ

# 地域挙げて獣害対策

獣害防止柵上部にネットを張り直していくメンバー。鹿沼市板荷



る総延長5・4キロに上る防護柵を設置した。設置後はほとんど被害がなくなったという。それまでは個人で対策がなされた。柵は壊されることもあ

り、年間6、7件のため、定期的に補修をしてきた。定期的な補修があり、年間6、7件のため、定期的に補修

## 遊休農地防止へソバ作り

も力を入れる。耕作放棄地解消のために和牛を放牧し、予防のためにソバ作りを行う。毎年12月には収穫したソバを使って「板荷畑そば祭り」を開催。地区外からも人が訪れ、地域の活性化につながっているという。ソバは9月ごろに白い花を咲かせるため、地域の美しい景観にも一役買っている。

福田さんは「今の活動を継続しながら、20〜40代をもっと巻き込んでいきたい。定年退職した人が農業をできるよう、農機具の共同利用なども検討する」と話す。来年度は発足10年目。再びアンケートを実施し、次の方向性を探るつもりだ。

(太田啓介)